

フレーズ & センテンス

①

今年の大河ドラマは林真理子原作の「西郷どん」だそうですね。皆さんは西郷隆盛と聞いて、何を思い浮かべますか？私は、どんぐり眼のかついい顔と、「西南戦争」というキーワードはすぐに思い付くのですが、実際にどんな人で、何を為したのか、ちゃんと答えられませんでした。そこで、歴史を勉強し直すようならうつもいで読んだのが、この『西郷隆盛と薩摩』です。前半では西郷の生い立ちを時系列にそつて説明し、後半では薩摩という土地がどのような場所だったのか、地理的な特性や藩主の政治的な立場などを解説しています。

西郷ゆかりの地を紹介するコーナーもあり、かなり充実した内容です。「一般に西郷家は貧しかったと言われているが、実は家来を召し抱えるような家柄だった」など、意外な事実も知ることができます。

「いまさら歴史の勉強なんて…」と思つていましだが、知らないことを知るのはやはり楽しいもの。皆さんも、この機会にもう一度歴史を学んでみませんか？（丸山）

TRY BOOK ③

皆さん、クリスマスの予定は決まりましたか？今回はクリスマスの奇跡を描いた物語からのトライです。

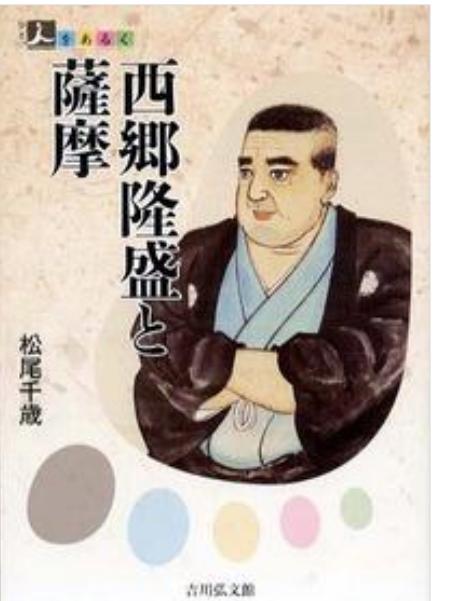
『赤い手袋の奇跡 ギデオンの贈り物』の主人公ギデオンは、貧しいながらも心優しい少女で、「クリスマスの奇跡は、それを信じる人に起きる」という言葉を聞いて真っ先に家族や他人の幸せを祈るような純真な子です。一方、家族を事故で亡くし、ホームレスとして生きるアールは、神を信じる心も捨て、クリスマスが最も嫌いな季節でした。そんな二人が出会い、まさに奇跡が起ります。そこで大切な役割を果たすのが、手編みの赤い手袋です。本当は5本指で裏地のついた手袋なんですが、棒針編み初心者の私にとっては、ちょっと難易度が…。どういわけで、今回編んだのはミトンです。時間はかかりましたが、なんとか両手とも編むことができました。

この物語、実は3部作で、すべてに赤い手袋が登場します。ぜひ3冊とも読んでみてくださいね。（丸山）

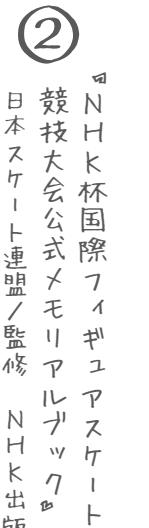


やよいTOPIX 本と出会う。

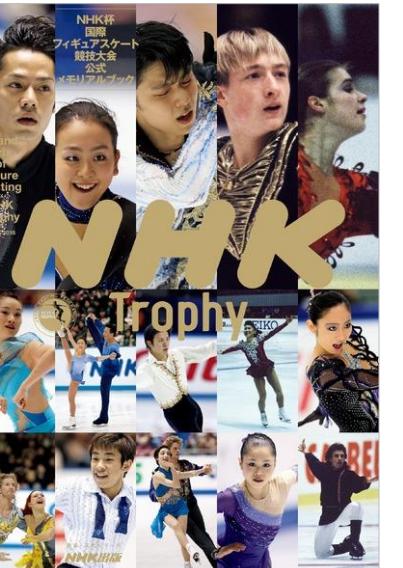
「西郷は馬鹿である。
しかしその馬鹿の幅が
どれほど大きい分からない。」



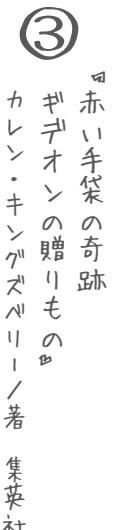
① 西郷隆盛と薩摩
松尾千歳／著 吉川弘文館



② NHK杯国際フィギュアスケート
競技大会公式メモリアルブック
日本スケート連盟／監修 NHK出版



こんな本もありますよ！
『銀のスケートぐつ』
ドッジ／作 ポカラ社
『もっと深く「知りたい！」フィギュアスケート』
阿部奈々美／著 東邦出版



③ 赤い手袋の奇跡
ギデオンの贈りもの
カレン・キングズベリー／著 集英社



再生館 再セレクト ④

異常気象のサバイバル

この夏休み、あだち再生館では小学生のために自習室を設け、図書コーナーには環境に関する本を置きました。すると、「この本、学校の図書館では借りる順番が40番目なんだけど、ここにあるんだ」と女の子が嬉しそうに話してくれました。聞けば、科学漫画「サバイバル」シリーズは世界中の子供たちに人気の本だとか。子供たちが様々な困難な状況を乗り越えてゆくストーリーに科学的な解説がついていて、楽しみながら学習できる工夫がなされています。

10月、日本では台風が2週連続で襲ってきました。また、世界的にも洪水が多発しています。この異常気象に私たちはどう立ち向かえばよいのでしょうか？ヒントを与えてくれるこの本は、あだち再生館の図書コーナーに置いておりますので、ぜひどうぞ。（再生館職員）

12月25日の記念日といえば？と、聞かれたらクリスマスと答える方がほとんどだと思いますが…記念日はそれだけではありません。

この日は1861年の12月25日に、函館に滞在していたイギリスの探検家トマス・ライト・ブラキストンが日本で初めてスケートをしたことから「スケートの日」もあるのです。

今月のテーマは「スケート」。先月開催されたNHK杯国際フィギュアスケート競技大会の歴史を振り返る本をご紹介します。

浅田真央選手や羽生結弦選手など、日本が誇るトップ選手はもちろん、過去の日本フィギュアスケート界を牽引してきた往年の名選手が美しくダイナミックな写真で紹介されています。その他にもコーチや振付師、実況者、スケート靴のブレーノー職人など、フィギュアスケート界を支えてきた人々のインタビューも読み応え抜群。ルールや採点表の見方も載っているので、2018年2月の平昌オリンピックに向けて一度読んでみてはいかがでしょうか。（生盛）

読書の窓

②